

氏名（本籍）	よし かね のぶ こ 吉 兼 伸 子 （山口県）
報告番号	甲第12号
学位の種類	博士（健康福祉学）
学位記番号	健康福祉博甲第12号
学位授与年月日	2017（平成29）年3月15日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当（課程博士）
学位論文題名	保育士のメンタルヘルス —陽性・陰性感情に基づく実証的研究—
論文審査委員	主査 教授 田中 マキ子 副査 教授 長坂 祐二 副査 准教授 上白木 悦子

## 論文要旨

女性の働き方が多様化し、保育の重要性が叫ばれている。また、「保育指針」にあつては改定毎に保育士の役割が拡大されている。このような社会変化の中で、保育士のメンタルヘルスは危機的状態にあるとされる。WHOによると、メンタルヘルスには「陽性感情」と「陰性感情」があり、両感情へのアプローチが必要とある。しかし、保育士のメンタルヘルスに関する先行研究は、陰性感情への要因分析が主流であり、陽性・陰性感情に重要な影響を及ぼす職場・家庭・社会要因等を網羅した研究や質的研究は少ない。

そこで、本研究では保育士のメンタルヘルスに対する陽性・陰性感情からの影響を実証的に明らかにした。まず、保育士のメンタルヘルスの質的検討を行い、次にメンタルヘルスへの影響要因として、基本的属性・職場・家庭・社会要因について実態調査を行った。以上2つの調査の結果から、以下の知見が得られた。

保育困難感とその対応及び保育士のやりがいの質的調査から、保育困難感は、発達障害に類似する行動特性を持つ子ども（以下、対象児と示す）に起因していた。対象児の

存在が保育困難感に影響していたにも関わらず、保育士の陰性感情には影響せず、「子どもや仕事が好き・保育に独創性が活かせる」など、保育士のやりがいとなっていた。保育士のメンタルヘルスに対する両感情に関連する実態調査では、両感情共に「ソーシャルサポートの充実」と「家庭の安寧度」が重要な要因として示された。また職場要因として、「仕事の量的負担」「仕事の質的負担」とは関連せず、唯一「職場の人間関係の良好度」が、保育士の陰性感情と関連していた。また、保育士のメンタルヘルス(WHO の SUBI)と両感情との関係評価では、心の健康と心の疲労は共存していた。これは、一見矛盾にうつるが、やりがいに裏付けられた心の健康(陽性感情)が、心の疲労(陰性感情)を調整していると捉えられた。保育士は、対象児との直接的な関わりにおいて陽性感情が刺激されるが、保育士自身の要因(家庭要因や職場での人間関係)が陰性感情に影響すると考察された。

以上の知見から、子どもへの保育活動を中心とした陽性感情は、保育士のメンタルヘルスの財産として守ると共に、陰性感情に関わる保育士自身の課題解決に向け、ワークライフ・バランス等を考慮した保育現場の働き方への改革を進める必要がある。保育には、子どもの健やかな発育を支え、社会性の確立を助けるなど、次世代における人材養成の礎を担う重要な機能を有する。それゆえ、子どもを養護する保育士のメンタルヘルスのバランスが図られ、向上することを願いたい。

## Abstract

### Mental Health of Nursery School Teacher

#### -Empirical Research Based on Positive and Negative Emotions-

Diversified working styles of women have placed a greater emphasis on childcare. Moreover, every reform in the "childcare guidelines," further expands the role of nursery school teacher. Amid such societal changes, the mental health of nursery school teacher is believed to be in a critical state. According to the World Health Organization (WHO), mental health depends on "positive emotions"

and "negative emotions," and perspectives on both the emotions are necessary. However, previous studies on mental health of nursery school teacher focus mainly on the factor analyses of negative emotions. Very few studies as well as qualitative research have focused on workplace, family, and social factors that can have significant effects on positive and negative emotions.

The present study empirically elucidates the effects of positive and negative emotions on the mental health of nursery school teacher. First, a qualitative assessment of the mental health of nursery school teacher was conducted. Next, a fact-finding investigation was conducted, to reveal whether fundamental attributes, workplace, family, and social factors are the primary aspects affecting mental health. The results of these investigations are presented below.

As revealed from the qualitative investigation of challenges in childcare, ways of coping with these challenges, and job satisfaction among the nursery school teacher, the challenges in childcare were attributable to children with behavioral characteristics similar to those of developmental disorders (here after referred to as target children). Although dealing with target children is associated with challenges in childcare, it does not induce negative emotions in nursery school teacher, as the "love for children and their job, creativity in childcare, etc.," makes their work meaningful for them. The fact-finding investigation on both the emotions affecting the mental health of nursery school teacher revealed "ample social support" and "quality of family life" as the major factors influencing both emotions. Among professional factors, "quantitative or qualitative burden of work" had no correlation with negative emotions, but "satisfactory workplace relations" was found to be related to negative emotions among nursery school teacher. Assessment of the relationship between mental health of nursery school teacher (subjective well-being inventory [SUBI] of WHO) and both emotions, points towards a coexistence of mental health and emotional fatigue. This appears to be contradictory; however, mental health backed by job satisfaction (positive emo-

tion) dilutes the emotional fatigue (negative emotion). Direct involvement with the target children arouses positive emotions in the nursery school teacher, whereas personal factors (family factors or work relations) affect the negative emotions.

From the above findings, with particular focus on children's upbringing activities, there is a need to reform the method of operation of the nursery , taking into account issues such as work-life balance of the nursery school teacher . As well as with maintaining the mental health of nursery school teacher, such reforms are a step towards a solution for problems involving low nursery school teacher morale. Child-upbringing involves supporting the healthy development of children, helping establish their social awareness, and has a vital role in laying the foundations of the next generation.

Therefore, it is vital to improve the mental health balance of nursery school teacher, who play such important roles in protective care, education and development of children.

## 審 査 結 果

吉兼氏の論文は、女性の働き方が多様化する現代社会において、子育て支援に重要な役割を果たす保育士のメンタルヘルスの課題に着目している。保育士に求められる役割は、子育て支援から地域の子育て拠点への貢献、障害児保育など、その対応は広がりを見せるばかりである。こうした状況でありながらも保育士人口の減少等、保育に係る課題は社会問題となっている。そこで本研究は、保育士の保育に関するメンタルヘルスにどのような要因が関係するかについて明らかにし、その解明について検討した実証研究である。

本論文は、保育士が抱える精神的負担に対する現状と課題を陽性・陰性感情に照ら

し質的・量的調査から分析が行われている。これまでの保育士研究では、陰性感情を中心に論じられる点や職場要因に焦点が当てられるなど家庭要因や社会要因等保育士をとりまく環境を総合的に捉えた分析が欠如していた。

第1章では、保育士をめぐる社会的動向や先行研究レビューから課題の言及を行った。保育士のメンタルヘルス研究では、陽性感情を従属変数とする研究が少なく、職場要因に関する言及が多い。また、保育指針第3次改訂（2008年）後、保育の現状を明らかにする質的調査研究は少なく、激変する保育現場が保育士に与える影響に関する現状と課題についての分析が十分に行われていない実態を示した。

第2章では、保育士の状況について明らかにするために保育士を対象としたインタビューによる質的調査から、メンタルヘルスへの影響を「やりがい」と「保育困難」という相矛盾する側面から捉え、テキストマイニング手法を用い、着目すべき要因の抽出と要因間の関係性を明らかにした。結果、「やりがい」には、「子どもがかわいい」という愛情や子どもの成長の実感が係り、「保育困難」には子どもや親への対応が示された。発達障害児の行動特性と類似する内容を持つ子どもについて、一つの個性と捉えられるようになるための経験と保育士の学習、関係機関との連携等が示された。第3章では、「やりがい」と「保育困難」を陽性・陰性感情の側面から、保育士のメンタルヘルスへどのように影響するかについて、主として尺度を用いた質問紙調査による量的研究から論述した。結果、心の健康度は一般女性や先行研究結果よりも高く、心の疲労度には業務上の負担よりも人間関係の良好度や家庭安寧度・ソーシャルサポートが関連することを示した。

第4章は、保育士のメンタルヘルスに関する各要因について総合的考察している。「やりがい」と「保育困難」は保育に係る陽性・陰性環境の二極であり、保育の専門家としての自負や成長希求に対応する支援を行うことが、相対する感情を陽性へと一元化することに効果すると示唆した。

吉兼氏の論文は、質的・量的調査が丁寧に行われており、分析方法の妥当性・信頼性、結果の整合性が保証されている。故に、博士論文に値する研究成果を示している。保育士の「子どもがかわいい」や「保育困難状況であっても、成長発達の過程の個性

の一つとして捉える」等、保育の専門家としての心情的側面を丁寧に証明した。今後ますます保育士への専門性の深化が期待される社会状況の中、保育士の置かれている社会状況的現実と課題を明確に示した本論文は、保育行政等の在り方に多大な示唆を与え、本論文の意義は大きい。

今後の発展的研究課題として、本論文の成果をどのような観点からどのような方法で進めることができるか、保育現場への具体的還元についての検討が期待される。

以上より、吉兼伸子氏の研究は、今後の健康福祉学領域に対し、独創的かつ応用可能な知見を提示したものとして評価できる。

氏は、独立した研究者として、今後の活動を担える研究段階に達したと判断し、審査委員会の田中マキ子、長坂祐二、上白木悦子は、吉兼伸子氏の博士論文を合格と判定する。